

邦訳されているイスラエル・ヘブライ語文学 二〇二〇年八月

(邦訳版刊行順に、著者名、書名、訳者名、版元名、刊行年の順に記載)

カ・ツェトニック『ダニエラの日記』落沢紀志夫訳、河出書房新社、一九六三年

(『痛ましきダニエラ: ナチに虐げられたユダヤ娘の死の記録』一九五六年の河出書房版を改題)

ヤエル・ダヤン『鏡の中の女』中嶋夏訳、二見書房、一九六八年

M・ベルンスタイン『キブツの娘』(戯曲集)、大久保昭男訳、講談社、一九六八年

シャイ・アグノン『ノーベル賞文学全集第15巻 スタインバック アグノン』村岡崇光訳、主婦の友社、一九七一年

カ・ツェトニック『愛と虐殺』落沢紀志夫訳、立風書房、一九七二年

アモス・コレック『愛と死のイスラエル』皆藤幸蔵訳、早川書房、一九七三年

アモス・オズ『わたしのミハエル』村田靖子訳、角川書店、一九七七年

イツハク・ベン＝ネール『遠い国から来た男』飯島宏訳、角川書店、一九七八年

エフライム・キシヨン『キシヨンのベストジョーク』石原佐知子編訳、実業之日本社、一九八〇年

アローナ・フランケル『うんちがぼとん』さくまゆみこ訳、アリス館、一九八四年

アローナ・フランケル『ぱくぱくぺろり』さくまゆみこ訳、アリス館、一九八四年

アローナ・フランケル『すやすやおやすみ』さくまゆみこ訳、アリス館、一九八四年

アローナ・フランケル『ぞうのまあくん』さくまゆみこ訳、アリス館、一九八四年

アローナ・フランケル『ことりのいのち』さくまゆみこ訳、アリス館、一九八四年

エフライム・キシヨン『ショートジョークじゃものたりない: Mr.キシヨンのストーリー・ジョーク1』原ゆう訳、角川書店、一九八五年

エフライム・キシヨン『うなるベーターヴェン: Mr.キシヨンのストーリー・ジョーク2』原ゆう訳、角川書店、一九八五年

エフライム・キシヨン『ウィーン肩書き協奏曲: Mr.キシヨンのストーリー・ジョーク3』原ゆう訳、角川書店、一九八五年

アモス・オズ『イスラエルに生きる人々』千本健一郎訳、晶文社、一九八五年

シャローム・ホラフスキー『ゲッターから来た兵士達: 包囲された森林と都市』河野元美訳、未来社、一九八七年

エフライム・キシヨン『ウフフワッハッハ: Mr.キシヨンのユーモアの本』原ゆう訳、講談社、一九八八年

デボラ・オメル『ベン・イエフダ家に生まれて』母袋夏生訳、福武文庫、一九九一年

ヨハベット・セガル『ユダヤ賢者の教え』全四巻、母袋夏生訳、ミルトス、一九九一～九二年

ダリヤ・コーヘン『ぼくたちは国境の森でであった』母袋夏生訳、佑学社、一九九二年

デイヴィッド・グロスマン『ヨルダン川西岸 アラブ人とユダヤ人』千本健一郎訳、晶文社、一九九二年

レナ・キフレル＝ジルベルマン『お願い、わたしに話させて』母袋夏生訳、朝日新聞社、一九九三年

ウーリー・オルレブ『壁のむこうの街』久米穰訳、偕成社、一九九三年

アモス・オズ『贅沢な戦争 イスラエルのレバノン侵攻』千本健一郎訳、晶文社、一九九三年

アミア・リブリッヒ『キブツ その素顔』樋口範子訳、ミルトス、一九九三年

バチヤ・グール『精神分析ゲーム』秋津信訳、イースト・プレス、一九九四年

アモス・オズ『ブラックボックス』村田靖子訳、筑摩書房、一九九四年  
メイル・シャレヴ／ヨスイ・アブルアフィヤ『こまるなあ おとうさん』いぬいゆみこ訳、アスラン書房、一九九四年  
ウーリー・オルレブ『壁のむこうから来た男』母袋夏生訳、岩波書店、一九九五年  
バチャ・グール『教授たちの殺人ゲーム』堀たほ子訳、イースト・プレス、一九九六年  
アハロン・アッペルフェルド『バーデンハイム 1 9 3 9』村岡崇光訳、みすず書房、一九九六年  
アハロン・アッペルフェルド『不死身のパートフス』武田尚子訳、みすず書房、一九九六年  
片瀬博子訳編『現代イスラエル詩選集』思潮社、一九九六年  
ピンハス・サデ編『ユダヤの民話』上下巻、泰剛平訳、青土社、一九九七年  
ウーリー・オルレブ／オーラ・エイタン絵『編みものばあさん』母袋夏生訳、径書房、一九九七年  
シュラミット・ラピッド『「地の塩」殺人事件』母袋夏生訳、マガジンハウス、一九九七年  
アモス・オズ『スムヒの大冒険』村田靖子訳、未知谷、一九九七年  
デイヴィッド・グロスマン『ユダヤ国家のパレスチナ人』千本健一郎訳、晶文社、一九九七年  
ダヴィッド・シャハル『ブルーリア』母袋夏生訳、国書刊行会、一九九八年  
アモス・オズ『現代イスラエルの預言』千本健一郎訳、晶文社、一九九八年  
アモス・オズ『地下室のパンサー』村田靖子訳、未知谷、一九九八年  
タマル・ベルグマン『<むこう>から来た少年』村田靖子訳、未知谷、一九九八年  
タマル・ベルグマン『ヤンケレの長い旅』岩倉千春訳、未知谷、一九九八年  
ガリラ・ロンフェデル・アミット『心の国境をこえて』母袋夏生訳、さ・え・ら書房、一九九九年  
ガリラ・ロンフェデル・アミット『もちろん返事をまっています』母袋夏生訳、岩崎書店、一九九九年  
ミハル・スヌニット／ナアマ・ゴロンブ絵『心の小鳥』江國香織訳、河出書房新社、一九九九年  
ウーリー・オルレブ『羽がはえたら』下田昌克絵、母袋夏生訳、小峰書店、二〇〇〇年  
ウーリー・オルレブ『砂のゲーム』母袋夏生訳、岩崎書店、二〇〇〇年  
ガリラ・ロンフェデル・アミット『ベルト』母袋夏生訳、さ・え・ら書房、二〇〇〇年  
ウーリー・オルレブ／ジャッキー・グライヒ絵『かようびはシャンプー』母袋夏生訳、講談社、二〇〇〇年  
ウーリー・オルレブ／ジャッキー・グライヒ絵『Tシャツのライオン』母袋夏生訳、講談社、二〇〇一年  
ダニエラ・カルミ『六号病室のなかまたち』樋口範子訳、さ・え・ら書房、二〇〇一年  
ウーリー・オルレブ／ジャッキー・グライヒ絵『ちいさいおおきな女の子』母袋夏生訳、講談社、二〇〇二年  
ウーリー・オルレブ『走れ、走って逃げろ』母袋夏生訳、岩波書店、二〇〇三年／岩波少年文庫、二〇一五年  
イエフダ・アミハイ『エルサレムの詩 イェフダ・アミハイ詩集』村田靖子編訳、思潮社、二〇〇三年  
ドリット・オルガッド『もうひとりの息子』樋口範子訳、さ・え・ら書房、二〇〇三年  
ウーリー・オルレブ／ジャッキー・グライヒ絵『おしゃぶりがおまもり』母袋夏生訳、講談社、二〇〇三年  
タマル・ベルグマン『サンバードのくる窓』柳田昌子訳、富山房インターナショナル、二〇〇三年  
デイヴィッド・グロスマン『死を生きながら イスラエル 1993-2003』二木麻里訳、みすず書房、二〇〇四年  
ゼルヤ（ツルヤ）・シャレヴ『愛と背徳の香り』上下巻、栗原百代訳、扶桑社セレクト文庫、二〇〇四年  
デボラ・オメル『心の国境』母袋夏生訳、日本図書センター、二〇〇五年  
ドリット・オルガッド『コルドバをあとにして』樋口範子訳、さ・え・ら書房、二〇〇五年  
ドリット・オルガッド『シュクラーン ぼくの友だち』樋口範子訳、鈴木出版、二〇〇五年  
エトガル・ケレット／ルートウ・モダン絵『パパがサーカスと行っちゃった』久山太市訳、評論社、二〇〇五年

モシェ・スミランスキー『死の接吻』母袋夏生訳、論創社、二〇〇六年  
デイヴィッド・グロスマン『ライオンの蜂蜜 新・世界の神話シリーズ』母袋夏生訳、角川書店、二〇〇六年  
ガリラ・ロンフェデル・アミット『ぼくによろしく』樋口範子訳、さ・え・ら書房、二〇〇六年  
アブラハム・B・イエホシヤ『エルサレムの秋』母袋夏生訳、河出書房新社、二〇〇六年  
エミール・ハビービー『悲観楽観屋サイドの失踪にまつわる奇妙な出来事』山本薫訳、作品社、二〇〇七年  
アローナ・フランケル『おうじよさまとなかまたち』母袋夏生訳、鈴木出版、二〇〇八年  
ウーリー・オルレブ『くじらの歌』下田昌克絵、母袋夏生訳、岩波書店、二〇一〇年  
ウーリー・オルレブ『遠い親せき』小林豊絵、母袋夏生訳、岩波書店、二〇一〇年  
アモス・オズ『わたしたちが正しい場所に花は咲かない』村田靖子訳、大月書店、二〇一〇年  
タミ・シエム＝トヴ『父さんの手紙はぜんぶおぼえた』母袋夏生訳、岩波書店、二〇一一年  
ナタリー・ベルハッセン／ナオミ・シャピラ切り絵『紙のむすめ』母袋夏生訳、光村教育図書、二〇一三年  
オト・ドフ・クルカ『死の都の風景：記憶と心象の省察』壁谷さくら訳、白水社、二〇一四年  
ヤネッツ・レヴィ『ぼくのレオおじさん』たかいよしかず絵、母袋夏生訳、学研教育出版、二〇一四年  
デイヴィッド・グロスマン／ギラド・ソフェル絵『ヨナタンは名たんてい』母袋夏生訳、光村教育図書、二〇一四年  
ウーリー・オルレブ『太陽の草原を駆けぬけて』母袋夏生訳、岩波書店、二〇一四年  
リタ・ジャハーン＝フォールズ／ヴァリ・ミンツィ絵『白い池 黒い池』母袋夏生訳、光村教育図書、二〇一五年  
エトガル・ケレット『突然ノックの音が』母袋夏生訳、新潮社クレスト・ブックス、二〇一五年  
ユダヤの民話『お静かに、父が昼寝しております』母袋夏生編訳、岩波少年文庫、二〇一五年  
タミ・シエム＝トヴ『ぼくたちに翼があったころ』樋口範子訳、福音館書店、二〇一五年  
エトガル・ケレット『あの素晴らしき七年』秋元孝文訳、新潮社クレスト・ブックス、二〇一六年  
ユバル・エルアザリ／リタル・アミール絵『空から見れば』樋口範子訳、ワールドライブラリー、二〇一六年  
ファニー・ベン＝アミ『ファニー 13歳の指揮官』伏見操訳、岩波書店、二〇一七年  
エトガル・ケレット『クネレルのサマーキャンプ』母袋夏生訳、河出書房新社、二〇一八年  
ハヤ・シエンハヴ／タマラ・リックマン絵『もりのおうちのきいちごジュース』樋口範子訳、徳間書店、二〇一九年  
ヨアブ・ブルーム『偶然仕掛け人』高里ひろ訳、集英社、二〇一九年  
サイド・カシューア「ヘルツル真夜中に消える」細田和江訳『世界文学アンソロジー』秋草俊一郎ほか編、三省堂、二〇一九年、四〇～五三頁  
ヨナタン・ヤヴィン『アンチ』鴨志田聡子訳、岩波書店、二〇一九年  
エトガル・ケレット『銀河の果ての落とし穴』広岡杏子訳、河出書房新社、二〇一九年  
エトガル・ケレット & アサフ・ハヌカ『ピツェリア・カミカゼ』母袋夏生訳、河出書房新社、二〇一九年  
エトガル・ケレット「たったの一九・九九シケル（税送料込）で」細田和江訳『世界の文学・文学の世界』奥彩子ほか編、松籟社、二〇二〇年、四四～五五頁

S.ティテルバウム&E.ロテム編『シオンズ・フィクション』イスラエル SF 傑作選、中村融ほか訳、竹書房、2020年

ヒリット・ブルーム／ヴァリ・ミンツィ絵『ママ、もうねるじかんだよ』母袋夏生訳、光村教育図書、2021年

(2021年3月1日更新/ 文責：細田和江、母袋夏生、樋口範子)